

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじん たまがわがくえん たまがわがくえんこうとうぶ・ちゅうがくぶ				②所在都道府県	東京都
26～30	① 学校名	学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	9 (中3) 年	10 (高1) 年	11 (高2) 年	12 (高3) 年	計	玉川学園高等部全日制普通科 703 名 (高1～高3)、玉川学園中学部 632 名 (中1～中3)。SGH プログラム対象学年は、中学 3 年生 212 名および高1～3 生の 4 学年とする。	
普通科	10	24	15	35	84		
IB クラス	26	18	20	9	73		
⑥研究開発構想名	国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	国際機関や国際 NGO でリーダーとして活躍するために必要な、多様な文化を理解し、世界の諸問題に興味を持たせる。その上で、多角的な視点から判断をし、強い意志を持って実行するためのコミュニケーション能力・語学力とリーダーシップを育成する。グローバルな学校としての文化を根付かせるために教員研修も重点をおく。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 【目的・目標】</p> <p>国内外のグローバルな大学や国際機関とのつながりや様々な体験活動から、生徒に世界の諸問題に対する興味とイメージを喚起させ、将来のキャリアとして国際機関や国際 NGO に勤務できるコミュニケーション力と視野を育成する。</p> <p>(ア) IB (国際バカロレア) の教育理念を参考にして、授業内における相互作用を手段とした教育実践とカリキュラムを開発する。</p> <p>(イ) 既存の提携校やラウンドスクエアの利点を生かしたリーダーシップを滋養する海外研修のしくみを構築する。特に振り返りや成果の発表や討論の機会を持つ。</p> <p>(ウ) 生徒の英語力を中心とした他者へのコミュニケーション能力の向上をはかるとともに、自己の内面との対話も行い他者への理解を深め、多様性を尊重できるリーダーとしてふさわしい精神的成熟をはかる。</p> <p>(エ) 経験豊かな教育分野の国際 NGO による第三者評価を行い、グローバルな学校作りに欠かせない教員研修の充実をはかる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>文理進学割合からみると文系学部へ卒業生の約 80%が進学しているものの、大学卒業後に国際機関や国際協力分野へ就職する卒業生はほとんどなく、高校時に提供した国際交流プログラムは将来の進路に余り結びついていない傾向がある。もし、高校段階で国際機関の仕事や役割が明確なイメージとなっていれば、大学卒業後も大学院進学や国際機関で必要なスキルアップが可能となり、長い目でみたキャリア計画が可能になるのではないかと。様々な国際色豊かな体験を通して語学と共に豊かな内面をもつ全人的リーダーが育成されるのではないかと。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>学内へはイントラネット「CHaT Net」による成果の発信を行い、研修参加生徒による生徒発表会を実施し、校内に常設展示スペースを設置する。学外へは SNS に連動した日本語と英文のホームページを制作し、リアルタイムに成果を広報する。</p>					

<p>⑧ -2 課題 研究</p>	<p>(1) 課題研究内容        多くの国際機関の活動フィールドである「A. 貧困」「B. 人権」「C. 環境」「D. 外交（リーダーシップ）」「E. 国際協力」の中からさらに具体的な個人探究テーマを登録し、関連する活動へ参加しながら理解を深める。  <b>【生徒個人研究テーマ例】</b>        貧困 ・南アフリカのタウンシップ（スラム）における生活の現状と課題は何か        　　　・ボツワナ農村部における貧困の現状と課題はどのようなものか        人権 ・ボツワナにおける HIV/AIDS の現状と課題は何か        　　　・紛争下の子どもはどのような人権問題があるかー現状と課題        環境 ・ドイツの環境教育と高校生の意識        　　　・ケープタウンにおける世界遺産保護活動の現状と課題        外交（リーダーシップ）        　　　・国連安全保障理事会改革への一考察ー模擬国連活動を通して        　　　・模擬国連活動を通じた核廃絶へのシナリオへの提言        国際協力 ・日本政府による海外援助ーボツワナ・青年海外協力隊の活動を通して        　　　・ボツワナにみるアフリカ投資最前線の実態とは</p> <p>(2) 実施方法・検証評価        ○全人的リーダーとしての基礎育成ステージ：        「グローバルキャリア講座」、「Tamagawa Super Global Leaders（TSGL）48 認定制度」        2つの活動を全員必修の基礎育成活動とする。この2つの活動を通して、世界の課題への興味と関心、全人性、リーダーシップ、コミュニケーション力を養成する。        ○課題探究ステージ：        基礎育成ステージを体験した生徒は、さらに具体的な個人探究テーマを登録し、関連する活動へ参加しながら理解を深める。        ◆「A. 貧困」・「B. 人権」を選択した生徒のモデル：        「ワールド・スタディーズ」「World Studies in English」の履修、アフリカン・スタディーズへの参加・自由研究「グローバル・スタディーズ」の履修等        ◆「C. 環境」を選択した生徒のモデル：        ラウンドスクエア玉川国際会議の企画・運営・参加、ゲーテ研修（またはアフリカン・スタディーズ）へ参加、自由研究「グローバル・スタディーズ」の履修等        ◆「D. リーダーシップ（外交）」「E. 国際協力」を選択した生徒のモデル：        授業「模擬国連」の履修・MUN 部（IB 生徒）への参加、アフリカン・スタディーズ研修、ゲーテ校（ドイツ・フランクフルト）研修への参加等</p> <p>(2) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上記 以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価        A. 玉川アドベンチャープログラムの実施（10 年次全員必修）        B. 生徒の英語力の向上をはかる諸活動の実施（GTEC、レシテーションコンテスト開催、アカデミック・スキル・キャンプ、海外大学生のとの交流企画）        C. 国際教育 NGO サスティナビリティー・フロンティアーズ（SF）による効果測定を世界基準のカリキュラム開発を目指す。具体的には、SF による参加生徒へのインタビューやアンケート調査を行い、ハイパネルミーティングにおいて運営指導、提言を行う。        D. 大学（玉川大学他）とのグローバルな高大連携科目の設定</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法        海外交換研修を通して毎年約 50 名の海外生が本学生徒の家でホームステイをしている。ラウンドスクエア実行委員会の活動を強化しホームステイ家庭の受入数拡大を狙う。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	

ふりがな	がっこうほうじん たまがわがくえん たまがわがくえんこうとうぶ・ちゅうがくぶ	指定期間	26～30
学校名	学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	人	58人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: IBIにおけるサービス活動やラウンドスクエア実行委員の社会奉仕活動や社会的活動に関する学習会などに参加する活動。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	70人
	SGH対象生徒以外:	61人	64人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 本校主催の提携校留学、海外研修に加え、外部機関利用の任意留学、海外研修に自主的に参加する。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	%	9.7%	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 海外で活躍している人の講演を実施し、海外への興味を喚起する。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	6人
	SGH対象生徒以外:	人	2人	人	人	人	人	人	4人
目標設定の考え方: 大会の情報提供を積極的に行い、参加にあたり生徒がアドバイスやサポートを受けやすい環境を整備する。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20%
	SGH対象生徒以外:	11%	9%	%	%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: 毎年一回、GTECの受験をするよう指導し、英語科の協力により対策講座を定期的に行う。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	12%
	SGH対象生徒以外:	11%	18%	%	%	%	%	%	7%
目標設定の考え方: 該当大学から入試担当者を招く機会を増やし、希望する専攻分野のある生徒に関しては担当者の紹介を行う。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:	2人	5人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 海外の大学の留学フェアなどを頻繁に実施し、情報提供、留学のアドバイスを行う。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 将来の希望に適った課題研究の設定が幅広く行えるようにし、講義やワークショップへの参加で専攻を深めさせる。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 高校卒業後も引き続き情報提供を行い、特に海外インターンシップなどの紹介を行い、語学留学以外の生徒を増やす。(1'b含む)									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	25人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 海外で行われる国際機関のワークショップや体験会などに参加する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 国内で行われる国際機関のワークショップや体験会などに参加する。(模擬国連、国際協力団体のイベントを含む)								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	1校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方: 高校レベルは提携校、IB校、ラウンドスクエア校、大学レベルは国内提携大学を通じて連携をする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	1人	人	人	人	人	人	5人
玉川大学、関西学院大学国際学部 of 先生等から定期的に学べる機会を提供する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	10人	17人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: グローバルキャリア講座やJICAやUNESCO、世界銀行などに講師の多様性を確保する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	30人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 貧困問題や人権問題に関する国内、国外のコンテストや弁論大会に希望者を募って参加する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	104人	74人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: IBやラウンドスクエアを通じて留学生、外国人生徒の受入を広く呼びかける。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 本校主催の研究発表会を年に一度開催する。ラウンドスクエアのアジア地域会議に参加し、発表を行う。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
目標設定の考え方: 月に一回程度の更新を心がける。生徒達自身による情報提供の機会を与え、バラエティに富んだものを目指す。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	963	918	902	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							